

SNS の視聴スタイルにおける魅力的な動画の要因分析とパターン化 - レシピ動画の例から -

津曲 亜美[†] 杉山 岳弘[‡]

静岡大学 情報学部^{†‡}

1. 背景と目的

ソーシャルメディアが動画の利用環境を整備したことで、拡散力や訴求力に注目した企業や個人による、SNS 動画と呼ばれる動画コンテンツが増えている。代表的な例が1分から2分程度のレシピ動画であり、2016年頃から急増している。

SNS では、ユーザから見ると、情報はタイムライン上に、意図的というより偶発的に表示されることが多い。そのため、立ち止まって見てもらうため、求められる動画形態が変化していると考えられる。映像の効果や印象に影響する要因については、一般的に言われている構図や画角の効果に加えて、編集技法の違いによる印象効果[1]や映像速度の影響[2]について分析がされている。しかし、これらの研究は見ることを目的にした映像が前提とされ、数秒で見るか見ないかが判断されるような SNS 動画とは視聴の条件が異なる。

そこで本研究ではこの新しい視聴スタイルに有効な、魅力的な動画の要因（以下、魅力要因）を、SNS 動画の代表例であるレシピ動画に対して映像分析を行い、明らかにする

2. アプローチ

レシピ動画の魅力要因を明らかにするため、映像の構成要素を抽出して分析する客観的分析と、人が映像を視聴した際に受ける印象の調査による主観的分析を組み合わせる。具体的に、人気のレシピ動画を分析し、映像構成要素を特徴ごとに記述する。次に、印象調査を行い、映像のパターンと印象を対応づける。この結果から、映像のパターンと与える印象効果について考察する。

3. 映像の構成要素による分析

今回は日本国内のレシピ動画メディアである次の5種類：

- TastemadeJapan (<https://www.tastemade.jp/>)
- TastyJapan (<https://www.buzzfeed.com/jp/tastyjapan>)
- DelishKitchen (<https://delishkitchen.tv/>)
- Kurashiru (<https://www.kurashiru.com/>)

Finding factors and making patterns of attractive videos in watching style on SNS : the case of cooking video

[†] TSUMAGARI, Ami · Shizuoka University

[‡] SUGIYAMA, Takahiro · Shizuoka University

• macaroni (<https://macaro-ni.jp/>)

の SNS 動画を分析対象とし、Instagram、Twitter から各 2 本、人気が高いものや反応が大きかった計 20 本のレシピ動画を分析する。

3-1. 分析方法

まず、映像分析の関連研究[1, 2]や SNS 動画に関する考察をふまえて、次のような編集・演出に関する映像構成要素を抽出する。

- 見た目：構図・アングル・色(背景色)・統一感
- 分かりやすさ：構成・速度・テロップの内容
表示時間・1ショットの秒数
- インパクト：トランジション・アングル・構図・構成

分析対象の動画をショットごとに分割し、上記の要素項目を記述・記号化し、共通する部分や特徴的要素をまとめて技法タイプとして分類する。さらにこの技法タイプの組み合わせで、映像全体も映像パターンとして分類する。次に特徴の見られた要素と定義した映像パターンを述べる。

3-2. 構成要素の特徴

[ショットの特徴]

レシピ動画は画角・アングルが決まった基本形のショット（フラットショット、以後、FS）と時折挟まれる特殊なショット（アクセントショット、以後、AS）で構成される。FS は全体像を映した俯瞰の日の丸構図が最も多い。AS は FS との対比でアングルを変えたものや、調理以外の動作で映像に変化をつけた数ショットになる。

[速度の特徴]

レシピ動画の特徴的な点の1つが速度であり、早回しやカットで省略した短いショットが連続する。速度は全て早回しの高速、早回しが一切ない等速と緩急のタイプある。緩急は高速な FS と低速な AS や、その前後で速度が緩むなど速度に変化が生じるものである。特徴的な例が TastemadeJapan の映像で、非常に早い FS の連続から、一定の間隔で AS を挟み、映像全体にリズムが生じている。

[構成の特徴]

レシピ動画のシーンは OP、調理、ED に分類できる。調理部は中心内容として全体の半分以上を

占める。OP と ED は冒頭と最後に入る 1~数ショットの AS にあたり、完成品のアップや仕上げ、持ち上げる動作が多い。分析した動画は OP-調理-ED、調理-ED の 2つの構成があり、さらに 3つのシーン内容によって図 1 に示すような細かいタイプが見られた。これらの OP と ED は映像にストーリーを持たせる役割を持つと考えられる。

OP	内容	調理	内容	ED	内容
あらすじ	AS	フラット	AS無し	インパクト	FS,AS
準あらすじ	AS	リズム	規則的なAS	リフレイン	OPの反復
インパクト	AS	ランダム	稀なAS	シンプル	FS,AS
シンプル	AS	インパクト	多様なAS	クライマックス	FS,AS

図 1. 各シーンの技法タイプ一覧

3-3. レシピ動画の映像パターン

次に分類した技法タイプと他の構成要素を組み合わせる映像パターンを作成したものを表 1 に示す。DelishKitchen、Kurashiru の動画は変化の少ない映像展開と構成が特徴のシンプルな形といえる。この場合、OP と ED の AS が導入の意味を持ち、固定的な FS の連続は安定した説明の効果があると考えられる。対して TastemadeJapan、TastyJapan は AS カットや特殊な演出が多く用いられる。様々なカットがあるためインパクトの強いパターンといえる。一方で macaroni は動作の規則性と OP、ED の説明量を特徴とし、ストーリー性に富むパターンといえる。このようにレシピ動画の特徴は FS、AS を軸にして説明でき、技法タイプの組み合わせによって分類できる。

表 1. 映像パターン (一部)

レシピ動画	速度	OP	調理	ED	演出
Kurashiru	緩急	シンプル	フラット	クライマックス	-
DelishKitchen	緩急/等速	シンプル	フラット	シンプル	-
DelishKitchen	等速	インパクト	フラット	リフレイン	-
Tastemade	緩急	-	ランダム	クライマックス	あり
TastyJapan	緩急	-	リズム	クライマックス	あり
TastyJapan	緩急	インパクト	インパクト	クライマックス	あり
macaroni	緩急	準あらすじ	リズム	クライマックス	あり

4. 印象調査

印象調査では、1 人につき 3 本の動画を視聴し、それぞれの動画に対して 21 語の形容詞対について 1 から 5 段階で当てはまるものを選択し、評価するものである。調査では各レシピ動画メディアに共通する 3 種の料理を選び、15 本の動画の印象を調査した。今回は 20~40 代の男女、70 人から計 210 件の評価を得た。

各形容詞の評点を平均してレシピ動画メディア

ごとにまとめたものを図 2 に示す。魅力に影響すると考える映像の分かりやすさについては、DelishKitchen と macaroni に特徴が見られた。

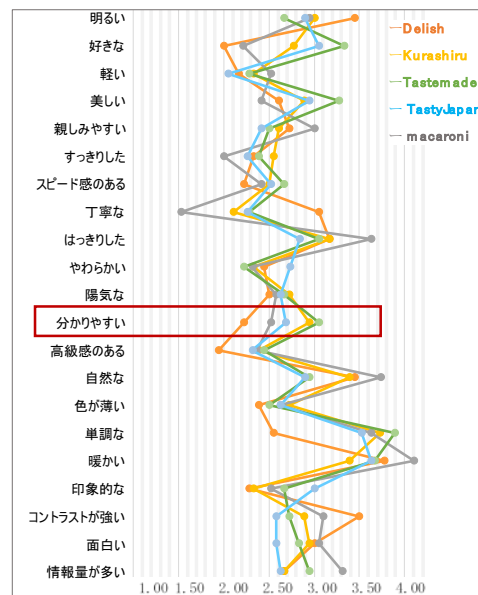


図 2. 印象評点の平均プロット (動画カテゴリ: 角煮)

DelishKitchen の場合、特に「分かりやすい」の評価が他動画に比べて高い。一方でストーリー性重視の macaroni も分かりやすさに一定の評価が見られた。このことから DelishKitchen、macaroni の映像パターンに共通する技法に説明に適した要因があると考えられる。

5. 映像パターンと印象に関する考察

DelishKitchen は映像パターンで述べたように変化の少ない連続性や OP と ED に反復の特徴がある。評価の高い Macaroni の映像は、OP と ED が説明力の高い「準あらすじ」と「クライマックス」、調理パートが規則性を持つ「リズム」に該当した。これら二つのパターンに共通し、分かりやすさの要因となっているものは規則性だと考えられる。同時に二つの映像パターンの速度タイプが異なる点から、映像速度が分かりやすさの評価に大きく影響しないこともわかった。

6. まとめ

新しい視聴スタイルに対する魅力的な動画パターンの提案として、映像のパターン化と印象調査の分析により、レシピ動画に含まれる魅力要因を明らかにした。

参考文献

[1] 藤田他, 映像コンテンツの印象評価における編集技法の影響
トランジション, 情報メディア研, Vol. 7, No. 1, pp. 1-13, (2008)
[2] 川崎, 井手口, 動画映像から受ける印象の因子分析と映像再生速度の各因子に与える影響, 通信学会論文誌 A 基礎・境界, Vol. 85, No. 9, pp. 1022-1025, (2002)